

地誌 第13回「西アジア地誌② イスラーム教とオイルマネー」

○今回のポイント

民族と文化の特色(教科書 p. 182~)

三つの民族と文化

(1)3つの民族

- [①]民族…イラク・シリア・レバノン・アラビア半島諸国から北アフリカ
- [②]民族…イランとアフガニスタン、タジキスタン
- [③]民族…トルコ・アゼルバイジャンから中央アジアのシルクロード沿い

(2)宗教

- 大半がムスリムだが、ユダヤ教・キリスト教もパレスチナで生まれたので、イスラーム一色ではない。
- エルサレムは三大聖地！



	④	⑤	⑥
成立	前6世紀	1世紀	7世紀
創始		イエス	ムハンマド
神名	ヤハウェ	神・イエス・精霊	アッラー
聖典	旧約	旧約・新約	コーラン
教義	律法主義 選民思想 メシア思想	三位一体 イエスはメシア 使徒の伝道	神への絶対服従 六信五行 偶像崇拝の禁止

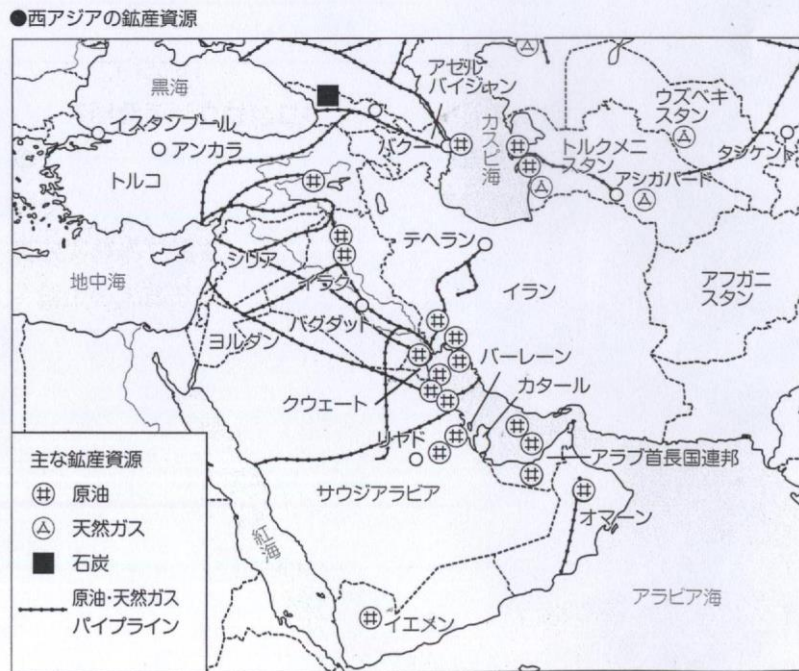
ムスリムの生活

○イスラーム…神教唯一絶対の神アッラーを信仰

⇒ 聖典コーラン…日常生活のルールが詳細に記される。⇒「⑦」

六信	(1)神	唯一絶対神、全知全能
	(2)天使	神と人間の中間的存在(仲介者)
	(3)経典	アッラーの啓示(コーランが最後にして最良の経典)
	(4)[⑧]	ムハンマドが最も優れた預言者
	(5)来世	最後の審判を受ける
	(6)定命	人間の行為は、すべて神の創造である。
五行	(1)[⑨]	礼拝のたびに唱える
	(2)礼拝	1日5回、メッカのカーバ神殿に向かって祈る
	(3)[⑩]	困窮者救済のための施し、一種の財産税
	(4)断食	[⑪]月の日の出から日没まで飲食しない
	(5)巡礼	一生に一度、巡礼月の7~13日に[⑫]に巡礼する。

資源にたよる経済



- 西アジアと中央アジア
⇒原油や天然ガスなどの資源に恵まれた地域。
- アラビア半島
 - ・サウジアラビア(世界最大)
 - ・クウェート
 - ・アラブ首長国連邦
⇒**ドバイのリゾート開発(資 p.163)**
- イランとイラク
- カスピ海周辺
 - ・アゼルバイジャン
 - ・カザフスタン
 - ・トルクメニスタン

WW II 以前…油田開発には多額の資本と高度な技術が必要。西アジア諸国は独自開発が出来ない。

↓
米英仏蘭の巨大石油企業である【13】(メジャー)が油田開発・原油精製・流通と販売を独占！

↓
1960年代…西アジア諸国の反発が強まる！
⇒1960年に【14】(石油輸出機構)、1968年に【15】(アラブ石油輸出機構)が結成

↓
第4次中東戦争を契機に資源ナショナリズムの展開！【16】発動！！
⇒原油価格の上昇、産油国に莫大なオイルマネーをもたらす。

↓
石油資源への依存を強めたため、工業化は進まず。

地域の抱える課題

(1)【17】未発達

・自動車や機械工業などは石油収入による富で外国から輸入の方が合理的。
⇒製造業の発達は進まず。(※近年はアラブ首長国連邦のドバイなどで観光開発を進める)

(2)【18】の台頭

・西アジアでは戦争や紛争が頻発。王族の支配や民主主義の未発達。
 ・資源依存により貧富の格差が拡大。特権階級が既得権益を貪る
 ⇒宗教原理主義に回帰して社会や国家を公正なものにしようとする(【19】)など
 ⇒一部過激派の台頭。アメリカナイズされた資本主義に対して同時多発テロ(2001.9.11)
 ⇒2003年、米英は、イラクがテロの温床になっていると口実をつけ、【20】を仕掛ける。
 (※米英は、世界最大の産油地域である西アジア諸国を安定させたい)
 ⇒ムスリムが反発し、治安が回復せず。